

牛久：学校周辺に見る自然

第30号 向台小

2020年6月21日発行

＜ 校庭の樹木と虫たち ～6月の向台小 ＞

こんにちは。今回は、向台小校庭の樹木を中心に紹介します。



サンゴジュの花(左)と、その蜜を吸うクマバチ(右)。

校舎の裏にも大きな木がありますが、給食室前にもサンゴジュが咲いていました。クマバチなどハナバチの仲間がたくさん来ていましたが、チョウがやって来こともあります。「向台っ子ちゃんねる」には動画をアップしていただく予定ですので、ぜひご覧下さい。夏から秋にかけてたくさんの赤い実ができて、それを珊瑚に見立てて「珊瑚樹」と名づけられました。でも、本当に熟した実は黒っぽくて、鳥がよく食べに来ます。また秋になったら、果実の紹介もしたいと思います。



ムラサキシキブ(左上)と花のアップ(右)、葉にとまるヒカゲチョウ(左下)。

まん丸池の裏側にはビオトープの池があり、そばに人知れずムラサキシキブが咲いていました。花もかわいいですが、秋には光沢のある鮮やかな紫色の実がたくさんできてとても美しく、それを源氏物語の作者とされる平安時代の女性、紫式部にたとえて名づけられたそうです。葉にはタテハチョウ科のヒカゲチョウがとまっていたいました。



近くの桜さくらからみつクキツタには、コシアキモモブトハナアブこしおびがやって来ました。おそらく、腰こしのあたりに白い帯おびが入っていて、後ろ足ふとのものが太いからついた名でしょう。生き物の名前はその特徴とくちょうからついていることも多いですから、名前が分からない時は、よく観察かんさつして自分で名づけてしまうのも面白おもしろいですよ。特徴とくちょうが分かっていたら、後で本当の名前が分かることも多いしね。ところでこのハナアブ、マルハナバチによく似にていますね。似てると、何かいいことあるのかな？

キツタの葉はにとまる、コシアキモモブトハナアブ。



トウカエデわかかじつ(左)と、その若い果実み(右)。

飼育小屋しいくごやのわきには、大きなトウカエデの木があります。よく見ると、うす緑色みどりいろの若い実みができていますよ。探さがしてみてください。秋あきに熟じゆくすと、くるくる回りながら落ちてくるようすが見られます。



マテバシイおぼなの雄花めばな(オスの花)、雌花わかみ(メスの花)、若い実さくねん(昨年めばなの雌花)。

体育館とプールたいいくかんの間に、マテバシイまてばしが咲さいていました。若い実わかみができていましたが、これは今年ことしの雌花めばなからできたものではありません。じつは、マテバシイのドングリは、2年かけて成長じゆくし熟じゆくすのです。コナラやシラカシは、その年の秋あきに熟じゆくします。また、マテバシイやスダジイの花粉かふんは虫はこが運びますが、コナラやシラカシの花粉かふんは風はこに運はこばれます。ドングリどんぐりの木も、いろいろですね。【理科支援員：宮内】